

# 日本福祉介護情報学会ニュース 2019 年度第 2 号

2019 年 10 月 16 日

発行：日本福祉介護情報学会（<http://jissi.jp>）  
埼玉県新座市北野 1-2-26  
立教大学コミュニティ福祉学部  
飯村研究室内 info@jissi.jp

## 【目次】

1. 第 21 回研究大会案内	1
2. 第 20 回研究大会報告	2
3. 学会誌「福祉情報研究」の進捗状況	3
4. 日本社会福祉系学会連合に関するお知らせ	3
5. 2018 年度決算報告	4
6. 事務局から	5

## 1. 第 21 回研究大会案内

日本福祉介護情報学会副代表理事  
林 恭 裕 (愛和福祉会)

第 21 回研究大会を 12 月 8 日（日）に立教大学池袋キャンパスで開催します。今回の研究大会テーマは、「介護業務における ICT 化と効率化の課題」です。いま、介護の現場では人材不足や介護職員の働き方、利用者の人権などの様々な課題を抱えています。そうした現状を ICT の活用により少しでも軽減することの可能性について考えるものです。

基調講演は、厚生労働省老健局高齢者支援課課長補佐で同介護ロボット開発・普及推進室室長補佐の井上栄貴様を講師に、「介護業務の ICT 化（介護ロボット）の現状とこれからの展望」をテーマに行います。井上様は、経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室室長補佐も併任されています。

シンポジウムは、テーマ「介護サービス ICT 化の現状と課題」とし、シンポジストにつきましては、ICT や介護ロボットの活用に取り組んでいる事業所と交渉中です。お願いしている中で、現在、株式会社マザアス（ミサワホームグループ）代表取締役 吉田肇様と社会福祉法人善光会理事最高執行責任者 宮本隆史様、社会福祉法人一誠会特別養護老人ホーム八王子偕楽園常務理事・施設長 水野敬生様が決まっています。いずれも ICT に熱心に取り組まれている法人です。

午前中は、自由研究発表の時間を設定しています。会員の方の積極的な発表を期待しております。自由研究発表は、研究大会テーマとは関係なく、会員の方が日ごろ取り組んでいる研究成果の場です。ぜひ、ご活用ください。

## 2. 第20回研究大会報告

日本福祉介護情報学会代表理事  
生田 正幸（関西学院大学）

2019年6月16日（日）に、立教大学池袋キャンパスにて、第20回研究大会を開催しました。今年度より、研究大会を春季・秋季の2回開催することになり、その初回となります。

今回は、「福祉・介護サービスにおけるAI（人工知能）の可能性」をテーマに、福祉・介護情報化の最新トレンドに取り組みました。

お気づきのように、福祉・介護サービスにおけるICT化・情報化の動きが加速しつつあり、先端技術の導入と活用によりサービスの効率化・高度化を目指す取り組みが活発化しています。背景には、福祉・介護サービスの実践現場における厳しい人手不足やスタッフの多様化、サービス提供の拡大・拡充への圧力、エビデンスに基づく科学的支援の展開、地域包括ケアの推進に伴う情報の共有と連携、ヘルスケアの推進を視野に入れたビッグデータとしての情報活用への期待など、福祉・介護サービスが直面する転換期の動向と、ICT化・情報化に関する技術的可能性の急速な拡大があります。

一言で言えば、私たちは今、激動する時代の流れに直面しているということができます。とりわけ、注目と期待を集めているのが、AI（人工知能）の活用です。そこで、福祉・介護分野で、最もAIの活用が進んでいるとみられるケアプランの領域をベンチマークとしながら、福祉・介護サービスにおけるAI（人工知能）の可能性を考えてみることにしました。

基調講演には、「ホワイトボックス型人工知能 AIを活用した自立支援に資するケアプラン提案の試行的な取組に関する調査研究」（厚生労働省 平成29年度 老人保健健康増進等事業）に携われるなど、AIを活用したケアプラン作成に詳しい遊間和子氏（株式会社 国際社会経済研究所 調査研究部 主幹研究員）をお願いし、AIの基本的な理解、福祉・介護サービスにおける活用の可能性、活用の際の問題点、課題などについて講演いただいた上で、「AI（人工知能）は日本の介護を変えるのか？」をテーマにシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、4名のシンポジストをお招きし、

- ①水野敬生氏（社会福祉法人一誠会 常務理事・地域密着型特別養護老人ホーム第二偕楽園ホーム 統括施設長・東京都高齢者福祉施設協議会 副会長・全国老人福祉施設協議会 広報委員会 副委員長）から、高齢者福祉施設をはじめ高齢者介護現場におけるサービス提供をめぐる状況、高齢者福祉施設をはじめ高齢者介護現場におけるICT化・情報化をめぐる状況とAIなど先端技術の導入・活用に対する期待や不安
- ②佐々木啓太氏（一般社団法人 日本介護支援専門員協会常任理事）から、ケアプラン作成等に関わるAIの導入・活用状況、ケアマネの立場からAIなど先端技術の導入・活用に対する期待と不安、日本介護支援専門員協会の考え方など
- ③米澤麻子氏（株式会社NTTデータ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット アソシエイトパートナー）から、厚生労働省が平成30年度老人保健健康増進等事業で実施した「AIを活用したケアプラン作成の基準に関する調査研究」の結果概要等によるケアプランAIの現状と問題点、今後の展開や課題など
- ④太田貞司氏（京都女子大学教授・日本介護福祉学会会長・当学会監事）から、介護サービス現場におけるサービス提供の現状とICT化・情報化をめぐる状況、AIなど先端技術の導入・活用が福祉・介護分野に与える影響、介護サービスに携わる者として認識し備えておくべき課

## 題など

について発題をいただき、遊間和子氏にコメンテーター、私（生田）がコーディネーターとなって議論を進め、高齢者福祉及び介護の実践現場の現状等を踏まえながら、福祉・介護の立場から、AIの導入・活用に対する期待や不安、対応状況等について理解を深め、AIの開発・導入状況や問題点、課題などを踏まえつつ、AIの導入・活用の影響と実践現場及び開発・導入・運用における対応のあり方について議論ができたと考えております。

冒頭申し上げたように、年2回開催として初の開催であり、周知が十分ではなかったこともあって、個人研究発表が1件にとどまるなど、運営に課題が残りましたが、春季大会では、今後も福祉・介護の現場と連携しつつ尖った課題に取り組んでいきたいと思っておりますので、会員の皆様のご参加とご意見・ご要望など、お待ちしております。

なお、今大会の基調講演、シンポジウムについては、学会叢書（仮題）としてとりまとめ発刊の予定です。また、大会の取材記事を株式会社インナービジョン様のサイト（<https://www.innervision.co.jp/report/usual/20190801/>）に掲載して頂きました（学会HPにリンクがあります）。併せてご案内させていただきます。

### 3. 学会誌「福祉情報研究」の進捗状況

日本福祉介護情報学会理事  
飯村 史恵（立教大学）

「福祉情報研究」第15号は、既にお手元に届いていることと存じます。前回の学会大会において基調講演をお願いした遊間和子氏の寄稿論文等も掲載しておりますので、ご覧ください。

なお、第16号につきましては、現在投稿論文等を募集中です。昨年度末に投稿規定を見直し、締切を10月末と変更いたしました。周知が十分行き届いていないこと等を勘案し、**2020年1月6日（月）必着に締切を延長**いたしました。

なお、メールによる原稿受付を準備中ですので、決まり次第学会HPにてお知らせします。会員の皆さまによる積極的な投稿を、心からお待ちしております。

### 4. 日本社会福祉系学会連合に関するお知らせ

日本福祉介護情報学会理事・日本社会福祉系学会連合運営委員  
小川 晃子（岩手県立大学）

日本社会福祉系学会連合では、学会としての合理的配慮に関する調査を本年8月に実施いたしました。この結果は、9月22日の日本社会福祉学会第67回秋季大会に併せて開催予定の日本社会福祉学会系連合の公開研究会で報告する予定でしたが、台風17号接近を受け、中止及び延期となりました。別日での開催につきましては、決定次第、本学会のHPとメーリングリストでお知らせさせていただきます。

## 5. 2018 年度決算報告

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
須永 誠 (東京都社会福祉協議会)

日本福祉介護情報学会2018年度決算				2019.06.15理事会承認 自 2018.04.01 ~ 至 2019.03.31
(単位:円)				
<b>《収入の部》</b>				
項 目	予 算	執行額	増 減	摘 要
1 入会金収入	40,000	14,000	26,000	
1-1 正会員	30,000	12,000	18,000	@3,000×4人
1-2 学生会員	10,000	2,000	8,000	@2,000×1人
1-3 法人会員	0	0	0	@100,000×0社
1-4 賛助会員	0	0	0	@30,000×0人
2 会費収入	600,000	465,000	135,000	
2-1 正会員	570,000	456,000	114,000	@6,000×76人分(実72人)
2-2 学生会員	30,000	9,000	21,000	@3,000×3人分(実3人)
2-3 法人会員	0	0	0	@100,000×0社
2-4 賛助会員	0	0	0	@30,000×0人
3 参加費収入	50,000	0	50,000	
3-1 参加費収入	50,000	0	50,000	
4 雑収入	5,000	16,456	△ 11,456	
4-1 雑収入	5,000	16,456	△ 11,456	預金利子、大会返礼他
5 繰越金	2,470,000	2,560,303	△ 90,303	2017年度からの繰り越し額
5-1 基本財産繰越金収入	1,320,000	1,325,000	△ 5,000	
5-2 前年度繰越金収入	1,150,000	1,235,303	△ 85,303	
合計	3,165,000	3,055,759	109,241	
<b>《支出の部》</b>				
項 目	予 算	執行額	増 減	摘 要
1 事業費	1,520,000	919,306	600,694	
1-1 理事会開催費	200,000	381,644	△ 181,644	7回分(事務局会議含む)
1-2 研究大会助成費	350,000	350,000	0	岩手県立大学
1-3 委員会費	50,000	0	50,000	
1-4 紀要発行費	400,000	90,520	309,480	打合せ会旅費・テーブル起こし 他
1-5 学習会開催費	100,000	0	100,000	
1-6 広報活動費	100,000	77,142	22,858	HP年間メンテ・レンタルサーバ費用 見込み
1-7 研究助成費	300,000	0	300,000	
1-8 分担金	20,000	20,000	0	福祉系学会連合分担金
2 事務費	160,000	87,304	72,696	
2-1 什器・備品費	10,000	0	10,000	
2-2 印刷費	30,000	0	30,000	
2-3 通信費	100,000	87,304	12,696	郵送料・手数料
2-4 事務補助員費	10,000	0	10,000	
2-5 諸雑費	10,000	0	10,000	
3 繰越金	1,360,000	2,049,149	△ 689,149	2018年度への繰越額
3-1 基本財産繰越金	1,360,000	1,339,000	21,000	入会金及び入会金繰越額相当
3-2 次年度繰越金	0	710,149	△ 710,149	
4 予備費	125,000	0	125,000	
合計	3,165,000	3,055,759	109,241	
<b>貸借対照表</b>				
<b>《借方》</b>				
科 目	金 額			
流動資産	2,127,353			
預金(普通預金)	2,115,353			
未収金(会費等)	12,000			
現金	0			
資産合計	2,127,353			
<b>《貸方》</b>				
科 目	金 額			
流動負債	78,204			
前受金	0			
未払金	78,204			
負債合計	78,204			
基金	1,339,000			
基本財産	1,339,000			
剰余金	710,149			
当期剰余金	710,149			
純財産合計	2,049,149			
負債・純財産合計	2,127,353			

## 6. 事務局から

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
飯村 史恵 (立教大学)

今年度より研究大会を1年に2回開催することになり、本年12月8日(日)に開催予定の第21回大会は、年度後半に開催する初の大会となります。本ニュースレターに研究大会開催要綱を同封しておりますので、併せてご参照ください。新たな執行体制による事業が軌道に乗るまでには、試行錯誤もあると存じますが、より多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

午前中の自由研究発表においては、発表者・共同研究者共に当学会の会員であることが発表の条件となります。また学会誌「福祉情報研究」の投稿においても、学会会員である必要があります。学会入会に関しては、ホームページ <http://jissi.jp/62> をご覧いただき、必要な入会申込書等に記載の上、お早めに手続きをしていただきますようお願い申し上げます。

### ■ 会員加入状況 (2019年9月30日現在)

正会員 101名 / 学生会員 9名 / 名誉会員 1名

### (編集後記)

予定より若干遅れましたが、今年度第2号のニュースレターをお届けすることができました。今年も暑かった夏に終わりを告げましたが、台風被害等で困難な状況が続いている方もいらっしゃると思っております。

生活上で困難な課題を抱える人一人ひとりに、社会福祉に関わる情報が真の意味で力になれる状況を目指して、日々を過ごしていきたいと思っております。

文責 日本福祉介護情報学会事務局 飯村史恵 (立教大学)